



「初年次プログラム」としての入門期セミナーと 基礎体験合同説明会

教育学部附属教育支援センター長：原 丈貴

教育学部では「初年次プログラム」の一つとして新入生を対象に「入門期セミナー」を実施しています。主な目的は、以下の2点です。

- (1) 新入生同士の親睦（横のつながり）や上級生との親睦（縦のつながり）を促すとともに、新入生の心配・不安・疑問等の共有・解消を図る。
- (2) 1000時間体験学修「基礎体験活動（選択）」に係る内容や参加手続き等の理解や学修意欲の向上を図る。

入門期セミナーでは1000時間体験活動のカリキュラムの説明のほかに、上級生によるレクリエーションゲームで親睦を深めたり、上級生が具体的にどのような体験を行ってきたか体験活動の紹介を聞いたりします。新入生を24班に分けて各班に上級生のアドバイザーを配置し、グループディスカッションも行います。

入門期セミナー終了後は、実際に昨年度学生の受け入れ実績がある事業所の方に来学いただき、「基礎体験合同説明会」を実施しています。そこでは、体験活動の内容やどのようなことが学べるのかなど、実際に事業所の方から説明を聞いたり、質疑応答を交わしたりすることで、体験活動のイメージをより具体化していきます。参加した新入生からは、「具体的なイメージが膨らんだ」「取り組みたい体験が見つかった」「不安がほぐれた」などの感想が寄せられ、入学から卒業までの流れを具体的に把握できるよい機会となっています。

